

花鳥風月・俳句

銀杏の葉風に誘われ舞い降りる

高橋 恵子

寒風に白き山茶花咲き始め

高橋 学

松山に團十郎や冬うらら

越智 和人

レンジにてやきいも旨し冬の夜

小枯らしやいりこあぶりて香ばしい

石井 トシ子

枯柏散るに散らない頑固者

冬ぬくし緑側に出てお茶を飲む

落合 敦

惜しみなく散り散にけり大銀杏

鈴木 伊都美

冬来たり寒空の夜月冴える

山茶花が薄紅色に咲き乱れ

明星 勲

初春や翼広げて鳥になる

武者震いして出掛けるや寒の入り

徳永 誠一

狭庭を我が物顔の石露の花

揚げ羽蝶風にそいきて舞い来たる

塗塀

良子

青空や映る新芽に風が吹く

緑台は父の手作り日向ぼこ

小野

弘幸

讃岐富士新米握るむすび飯

歳暮から虚礼廃止実行す

小林

泰子

分
か
ら
な
い
こ
と
勉
学
秋
深
む

分
教
の
宿
紅
椿
紅
き
わ
む

川
底
に
二
・
三
種
見
ゆ
る
木
の
実
か
な

曾
我
部

福
石